

ななごう

# 議会だより

7月  
2014 vol.134



●議員としゃべっぺ 第2弾…11

# 公民館整備、市民体育館の備品等を補正

## 6月定例会



6月定例会は6月6日～20日まで開催されました。報告2件、承認案1件、諮問案1件、同意案2件、条例案1件、補正予算案2件、計9件を全て可決しました。

今回は、全国市議会議長会において高橋篤副議長、田中貞一議員に勤続10年の表彰。遠藤榮吉議長に地方財政貢献の感謝状がそれぞれ伝達されました。一般質問は6名が行い、農地の集積化の問題、新文化会館維持管理の課題、人口減少対策、医療介護総合法案、いじめ対策、高齢化社会対策、ハイジアパークの経営等について当局の考えをたえました。

### 予算特別委員会

財政調整基金(積立金)は5億8200万円に改善

予算特別委員会は17日に開催、一般会計補正予算をはじめ2件を審査し可決。主な補正は、新文化会館建設の財源中、補助金の増額1億754万円、総合文化施設整備基金から4億706万円余りの繰り入れにより、財政調整基金の充当抑制が図られ、26年度末の同基金残高は5億8200万円余りに回復、改善の見込みとなる。

歳出の主なものは菊

まつり補助金に700万円、公民館整備補助金に870万円、市民体育館備品購入費に908万円。(詳しくは3頁をご覧ください)

質疑応答では、今後の財政調整基金の行方や、菊まつりのPRの方法、女性がん検診率の向上等について質問が出された。

一般質問は6人  
持ち時間50分では足りないほど白熱す

今回の一般質問は船山利美、高橋一郎、佐藤明、白鳥雅巳、板垣致江子、山口正雄議員

### 常任委員会付託審査

少人数学級の推進と教育費国庫負担改善に関する請願は採択(文教厚生)

今回は、文教厚生常任委員会に請願1件。産業建設常任委員会に市道認定議案1件、請願1件が付託された。

雇用の安定を求める請願は継続審査

産業建設常任委員会に付託された「雇用の安定を求める」請願については、採択には時期尚早の意見が多く占め継続審査となった。

(詳しくは常任委員会審査報告9頁をご覧ください)

採択請願は次のとおり。○少人数学級の推進及び義務教育費国庫負担制度の改善に係る請願。



新文化会館見学会で説明を受ける市民

## がん患者医療用ウィッグ購入助成金

### 25万円

がん患者が治療等で、髪のお悩みの方に対して、医療用ウィッグ購入資金の一部として、一人1万円の助成を行うものです。

## ハウス栽培燃油高騰対策補助金

### 20万円

ハウス栽培で灯油・重油を利用している農業経営者に対し、燃料高騰対策事業としてJA補助金の他に市から灯油5円/ℓ、重油2.5円/ℓを助成するものです。



中川公民館の外壁修理工事と漆山公民館駐車場の外構工事を実施するものです。

### 870万円

## 公民館整備事業

誘客増を図るため、場面を増設し、JR赤湯駅や各旅館等のぼり旗を設置しPR効果を高めていくものです。

### 700万円

## 菊まつり事業補助金



現在のバスケットリング

## その他の主な事業

☆南陽産ワイン普及拡大と人材育成事業	217万円
☆スカイパークログハウス修繕工事	203万円
☆夕鶴の里資料館土蔵屋根修繕工事	218万円
☆多面的機能支払交付金事業負担金 (旧 農地・水事業)	540万円
☆幼児教育アドバイザー事業費	146万円
☆第15回さわやかマラソン記念事業補助金	200万円
☆消防施設整備事業	210万円

## 市民体育館備品購入費

### 908万円

今年から山形県を本拠地とするプロバスケットボールチーム「パスラボ山形ワイヴァンズ」がNBDLに参戦します。本市では、ハイレベルな試合観戦で夢や希望を育て、また、交流人口の増加や地域経済活性化を期待し、プロバスケット試合を誘致するためプロ仕様のバスケットリングに取り換えるものです。

今年度、南陽市民体育館での開催は2試合(12月6日、7日)を予定しています。

県内の他会場は県総合運動公園体育館、山形市総合スポーツセンターとなります。

# 質疑要旨



山口 正雄  
予算特別副委員長



板垣致江子  
予算特別委員長

## 予算特別委員会

議事に先立ち、予算特別委員長に板垣致江子議員、同副委員長に山口正雄議員を選出した。一般会計補正予算の質問及び当局の答弁要旨は次のとおり。

### 高橋 一郎 議員

#### 財政調整基金の残高は

◎新文化会館事業費57億円を支払後、26年度末の財政調整基金の見込み額はいくらか。

〈企画財政課長〉県の補助金の増額等で27年3月末では5億8200万円の残高の見通し。◎さらなる努力で基金の増額を要望する。

### 山口 正雄 議員

#### 移住定住促進コーデイネイトは

◎調査対象者は。転入・転出者の状況は。

〈企画財政課長〉県内に限れば本市の転入者は転出者より多い。若者の都会志向は他市よ

り強い。

◎高校を卒業して都会に行くのは生活できる雇用先がないからだ。

企業誘致、雇用の場が大事だが市長の考えは。〈市長〉若者が都会に行きたいのは自然。帰ったときに文化や教育でギャップのないように新文化会館やスポーツ面で誇れるようなものを提供していくことが大事だと思っ

ている。◎移住定住促進コーデイネイト事業調査が街づくりに資するよう期待する。

### 佐藤 明 議員

#### 中小零細企業対策を問う

◎小規模企業振興法案

が国で議論されている

が地域に及ぼす影響をどのように見ているか。

〈商工観光ブランド課長〉地方経済に与える影響については、まだ把握はしていないが、中小企業に対して従来にも増して補助金が増額されている。

◎この法案は中小零細企業を守り、雇用と地域経済を守る観点での法案と理解しているがどうか。

〈市長〉地方経済は中小零細企業で担ってきた。支援も含めて対応したい。審議の推移を見ていき



### 白鳥 雅巳 議員

#### 菊まつりのPRは

◎菊まつりのPRに関

する工夫と計画は。

〈商工観光ブランド課長〉市内向けにはポスター、チラシをDCに合わせ、JRと各旅館に配布。首都圏のイベントとの懇談会を開催しPRをお願いしている。

◎国道、県道、各旅館、商店街などにのぼり旗を立てる計画は。

〈商工観光ブランド課長〉市内各旅館の状況に合わせ、のぼり旗の大小を立てて頂くようお願いしている。

### 船山 利美 議員

#### 鳥獣被害の防止計画策定は

◎鳥獣被害防止計画は、近隣市町では作成しているが、本市は。

〈農林課長〉鳥獣毎に作成しているが、鳥獣被害対策実施隊の設立に合わせて更に充実し

ていきたい。

◎被害調査が大事であり、計画をしっかりして取り組んでほしい。

### 吉田 美枝 議員

#### がん検診受診率向上の具体策を

◎働く女性のためのがん検診率アップの具体的取り組み内容は。

〈保健課長〉子宮がん、乳がん検診率が上がらないため、未受診者対策として国と市が2分の1負担で無料クーポン券を配布して取り組むものだ。

◎受診率向上の工夫と若いから大丈夫という観念は違うということ

を踏まえて対策をとって欲しい。〈保健課長〉市報ホームページ、講習会、検診時などあらゆる機会に啓発を強く進めていく。

# 一般質問と答弁要旨

## 農地中間管理機構の 取り組みは万全か！

中山 利美議員



◎本市の受け皿の体制等はどうなっているか。

〈市長〉「南陽市農業振興協議会」で受託し、農林課、農業委員会及び農協が業務を分担して当るよう協議を進めている。

◎本県は10年後に集約率90%を目標にしているが、本市は可能だと考えているか。

〈市長〉本市は複合経営体が多く集約目標の90%は、厳しい数値だと捉えている。

◎早期に目標達成しないと、地域集積協力が減少してメリットが無くなるがどう考えるか。

〈農林課長〉国の制度なので、農家側にとってこの制度を活用する方が有利だと判断を進めていく。また、地域ぐるみでの話し合いが必要なので、話し合いの熟度を高めた上で、

この制度に入っていく。

◎集積・集約化により農家が減少するが、隣接する市道等の草刈や用排水路の一斉清掃などの地域環境保全を行う政でサポートできるか。

〈市長〉担い手農家等の負担は大きくなるが、国が新たな「多面的機能直接支払制度」を設定し、支援が充実されたので、この制度を活用していく。

◎本市の青年新規就農者の動向や見通しは。

〈農林課長〉25年度の本市の新規就農者は、9人で就農率は県内でも上の方である。

◎山間地等の耕作放棄地対策は考えているか。

〈市長〉受け手の無い耕作放棄は解決できないが「山間地域直接支払い制度」を活用し、「里山資本主義」の考え方も含めて勉強する。

高橋 一郎議員



## はっきりしない1億円の財源 新文化会館維持管理費は長期の問題

◎概ね1億円を要する新文化会館の財源は、貸館売上収入のほか一般会計で捻出しなければならぬと思うが市長の考えは。

〈市長〉運営管理費用は貸館収入のほかは一般財源からの支出と考える。可能な限り経費を圧縮しながらも、市民の要望に答えられる良質な芸術・文化の興業を受け入れていく。自主事業については、企業とのタイアップ興業も視野に入れて運営費用の軽減に努める。

◎たとえば、資金援助を行うサポーターズクラブ（法人及び個人会員）やステージスタッフの有償ボランティア、友の会などの組織化は考えているか。

〈市長〉市民の芸術文化を担うだけでなく、南陽市の交流人口を増

やす起爆剤となる拠点であり、本市に来ていただいたお客にお金を落とさせていただく。まずは、貸館収入、自主事業、一般財源で賄い、市民が負担になるようなことを今すぐには考えていない。

◎この施設を先進地視察で訪れる県外市町の方を観光も含めてガイドを行う有償ボランティアガイドが必要ではないか。

〈市長〉検討していく。◎私は使用者負担の原則から教育関係を除き100%減免はしないほうが良いと考えている。使用料の減免についての考えはいかに。

〈市長〉オープンは来年の秋。使用料自体も決まっていない。今年12月か来年3月議会で示す際に、減免についても盛り込む。

# 答 弁 要 旨

## 命と健康、暮らしを守れる 「医療・介護総合法案」か！

佐藤  
明議員



◎衆議院厚生労働委員会での「医療・介護総合法案」を全野党が反対するなか、5月14日強行採決された。審議では、医療・介護の今までの仕組みを根本から突き崩し、国民の安心を奪う法案の重大な中身が明らかになっている。住民と身近に接して医療・介護を担う地方自治体からも異議申し立てが相次いでいる。5月に行われた地方公聴会や参考人質疑では、法案への現場の懸念や不安の声が続出した。また、甲府の地方公聴会で県医師会長が「拙速な推進は介護難民をつくりだす」市町村に差が出ることは大きな問題点だ」と述べたことは医療・介護を提供する側の強い懸念を示すものだ。塩田市長の見解は。

〈市長〉 私たちの命と健康、暮らしに直結する医療と介護の大改革であるので、国民が納得できるように、もう少し丁寧に進めていただければ良かったのでは、との感想を持ったところだ。

◎要支援の「訪問介護、通所介護」のサービスを廃止すると聞いているが、その対応は。

〈市長〉 今後の具体的な動き、通知等を注視していく。移行時期については、計画策定委員会等のご意見を賜りながら事業計画の中に位置づけていく。

◎特別養護老人ホームの入所者は原則「要介護3以上」に限定と聞いているが対応は。

〈市長〉 一定の要件を満たす軽度の方は、市町村の関与の下で特別に入所を認められる。

## 医療費の無償化拡大と 地域包括ケアシステムの構築を

白鳥  
雅巳議員



◎工業団地内に女性従業員のための託児所の設置を検討できないか。

〈市長〉 増え続ける未満児保育需要の解決策の一つであり射たものだ。現在策定中の地域子ども子育て支援事業計画で位置づけできれば、事業主に情報提供していく。

◎現在小学6年生までの外来診療分の医療費無償化を中学3年生まで拡大できないか。

〈市長〉 拡大については、強い要望があることは承知している。子育て支援宣言都市の更なる充実を図るため、制度の拡充を前向きに検討する。

◎結婚推進室の成果について。

〈市長〉 6年間で、見合い件数は延べ135件、成婚数は15件となっている。

◎独居高齢者の急増に対する施策は。

〈市長〉 今後ますます一人暮らし高齢者、老老介護、認知症高齢者の増加が見込まれる。特に、在宅医療・介護連携の推進と認知症高齢者の生活支援については今後何を整備すべきか多面的に検討する。

◎介護ヘルパーの高齢化対策について。

〈市長〉 国では人材の確保を図るため、処遇改善、多様な人材の参入促進等をしている。市としても可能なものは積極的に取り組む。

◎障がい者の高齢化への対応について。

〈市長〉 生活環境が異なる障がい者の方が、様々な課題を抱えて暮らしており、相談機能を更に充実し、生活全体を包括して支える社会の構築に取り組む。

## 未来ある子どもたちの支援と 高齢者支援対策の充実を



板垣致江子議員

- ◎小中学校の不登校と共に、高校生の不登校に対してもしっかりと支援体制が必要では。
- 〈教育長〉 高校生の状況把握は困難。県全体では24年度高校中退は418名。市の教育相談室(クオーレ)への相談件数は今年度2件、中学校への相談も数件ある。
- ◎ひきこもりなどにさせないためにも相談員の増員などの充実を。
- 〈市長〉 教育委員会とも精査し、成果の上がる対策をやりたい。
- ◎大きな社会問題にもなっている認知症高齢者の状況と対策は。
- 〈市長〉 日常生活自立度Ⅱ以上の認知症の方が1098人、入所者が249人、地域には、850人暮らしている。認知症疾患医療センターなどと連携し、物忘れ相談やオレンジ・カフェ、サポーター養成講座など行っている。高齢者虐待も昨年度14件発生している。
- ◎行方不明時や安全のために認知症の理解と地域の協力が要である。その取組は。
- 〈市長〉 民間事業者を含めたSOSネットワークを早急に進める。
- ◎DVや離婚を背景に無戸籍で学校にも行けず、自分を証明するものが無い人が増えているという。市の状況は。
- 〈市長〉 DV相談25年度14件。県のDV被害者支援計画との整合を図り「男女共同参画なんようプラン」の改定も検討し、DV防止の啓発、児童や高齢者虐待防止に努める。戸籍の有無に関係なく児童手当の受給、保育所入所、学校入学も可能になっている。



山口 正雄議員

## ハイジアパーク早期経営黒字化を 受益者負担の見直しも必要では

- ◎入浴料300円は黒字化できるという経営判断だったのか。
- 〈市長〉 経営改善をはかるため、近隣施設との比較で、利用者増が期待できる料金を設定した。しかし、様々な想定外の経営圧迫要因で現状に至っている。
- ◎利用者は倍増しているが、赤字の原因は売上高減少にある。見通しの甘さがあったのではないか。
- 〈市長〉 多くのお客様にご利用頂ければ、売上増も期待できると想定していた。ハイジアの魅力、サービスなどやり方に問題あったと反省している。
- ◎特に、料飲売上高が減少している。レストランへの誘導策に工夫が必要だ。また、料飲全体の原価率が高すぎる。宴会毎に管理を徹底すべきだ。
- 〈市長〉 収益を考えた施設になっていないと感じている。原価率については素材にこだわる傾向がある。美味しいものを低料金で提供し、正当な利益を出せるようにしていきたい。
- ◎近隣の入浴料金と比較して安すぎる現状だ。市民は、値上は反対だと思うが、経営が存続できなければ元も子もなくなる。料金見直しについてどのように考えているか。
- 〈市長〉 プロの意見も聞きながら、料飲も含めて料金見直しが必要と考えている。また、ヒット商品を作ることにも必要だ。
- ◎市民は閉鎖や赤字を望んでいないと思う。早期に安定的に黒字経営できるよう強い指導力を発揮してほしい。

# 国は早期に35人学級を拡大すべし！ 義務教育費国庫負担割合を2分の1に戻すべし！

## 文教厚生 常任委員会



漆山学童保育の様子

付託議案は請願1件

◎少人数学級の推進及び義務教育費国庫負担制度の改善に係る請願

山形県は先駆的に「さんさんプラン」で、すでに取り組んでいるが、全国的にはまだ大人数のところがある。多様な子どもたちが増えている中で、少人数学級は子どもや先生に

とってもいいことであり、保護者にも評価されている。また地方の財政負担を考えると、

国庫負担の割合を3分の1から2分の1に戻すべきである、との意見が委員より出され、全員異議なく採択すべきものと決し、国の関係機関に意見書の提出をすることとした。

### 管内視察レポート

5月16日、4ヶ所を

管内視察

#### ◆公立置賜南陽病院

心が通う安心と信頼の身近な市民の病院が基本理念。病床数は一般50床で、病床稼働率は87.6%。平均在院日数は38.5日で、総合病

院から寝たきりの長期入院患者も受け入れている。サテライトの診療体制なので、時間外や夜間の救急患者の受け入れはなされていない。病院建物が耐震診

断の義務付け対象建築物で、今後の耐震改修に頭を悩ませているとのことであった。

#### ◆漆山地区ふれあい交流センター

社会資本整備総合交付金事業を用いて、旧J A山形おきたま漆山支店を取得・改修し、

地域の活性化や地域コミュニティの維持、再生を図るために整備したもので、昨年12月に

竣工。生涯学習の拠点として、地域住民の利用率向上に寄与しているとのこと。

◆漆山双葉保育園・漆山学童保育施設

今年4月、新しく完成した温もりを感じる明るい園舎で0歳児から5歳児まで31名の園児を受け入れ、地域の子育ての拠点として、地域から愛される保育園を目指している。少

人数の縦割りクラス編成がなされており、大きい子が小さい子の面倒を見、自然に兄弟愛を学び、思いやりのある子を育てるなど、地域の特性をうまく活かした保育を心がけているとのこと。

学童保育施設も併設

となっており、18名の児童が入所している。

#### ◆沖郷第三学童保育施設

沖郷地区の学童入所希望者が増えたことで、今年度より島貫公民館二階に新しく開設したものの。島貫・郡山地区の児童36名が入所。3

学童施設の連携を密にし、交流を持ちながら一人ひとりが安心して過ごし心の拠り所となるよう、各学年に応じた指導を行っていくことを運営基本目標としている。

それにしても沖郷小1、2年生児童の半数が学童施設に入所している実態に驚く。保護者の就労、共働美化、核家族化といった家族の多様化は都会も地方も大差がないことを改めて感じた。

(委員長 吉田 美枝)



・2路線を市道認定  
・「雇用の安定を求める請願」は継続審査



市道認定路線を現場視察

現地調査を行い審査を受けた。委員からは、非正規雇用の増大などで日本の雇用体制がますます崩れていく。ホワイトカラーイグゼンプション導入により長時間労働や過労死増大の懸念など意見が出されたが、採決には時期尚早の意見が多数をしめ、今後

◎市道認定について  
2路線市道認定  
桜木町8号線（三間通地内旧ヨークベニマル跡地）及び、長岡団地1号線（長岡地内旧ジャスコ跡地）は民間の宅地開発により整備された道路であり、このたび市に帰属され、市への所有権の移転登記が完了したことから、市道として認定するもの。

◎「雇用の安定を求める請願」について  
この請願は雇用労働者が、安定的な雇用と公正な処遇の下で安心して働くことができる環境を整備することを、国に対して意見書提出を求めるもの。審査にあたり、紹介議員の申し出により委員会出席を認め説明を受けた。委員からは、非正規雇用の増大などで日本の雇用体制がますます崩れていく。ホワイトカラーイグゼンプション導入により長時間労働や過労死増大の懸念など意見が出されたが、採決には時期尚早の意見が多数をしめ、今後



栗子トンネルの説明を受ける

山形県庁の高さと同じ。最大貯水量は3100万m<sup>3</sup>で、小学校プールの9万5000杯分とのこと。今年には雪解けが早かったので、現在97%の貯水率となっており、今のところ水不足の心配はないとのこと。

引き続き調査検討するべきとして、継続審査と決した。  
管内視察レポート  
5月14日、3ヶ所を管内視察  
◆東北中央自動車道 栗子トンネル工事現場  
福島米沢北間工事は去る3月22日に栗子トンネルの貫通式が行われている。  
このトンネルは東北

一の長さで、全国でも5番目の全長8972mとのこと。トンネル内の2000mまでバスで入り、トンネルと付随して排気坑、避難用トンネルが設置されている説明を受けた。この道路が完成すると米沢福島間が40分から20分に短縮されることになる。  
◆水窪ダム  
ダムの高さは62m、



完成した宮内地区 板堰頭首工

ダムの水利用は、2市2町の農業用水が93%、水道が5%、八幡原の工業用水に2%使っている。  
◆吉野川板堰頭首工 災害復旧工事  
25年7月の豪雨災害で決壊した宮内地区の板堰頭首工の護床ブロックによる復旧工事で、今年3月25日に完成している。  
(委員長 川合 猛)

※ホワイトカラーイグゼンプションとは…事務職を対象に労働時間規制の適用を除外するという規定

# 災害発生時の緊急放送を体験

5月21日、3カ所を管内視察

## ◆NCV(株)ニューメディア

コミュニティFMで災害発生時の緊急放送システムの説明があり、実際に指定ラジオでの放送を確認した。災害情報はNCV放送局を通し、情報をリアルタイムで提供できるとの説明を受けた。また、社内放送施設等を案内して頂いた。2市2町で約1万2千世帯でNCVの受信契約しているとのこと。

## ◆浅川最終処分場施設 (浅川ふれあい公園)

この施設は千代田クリーンセンターからの焼却灰、粗大ごみなどの不燃性残渣物、また、各市町が搬入する側溝清掃土砂や施設から出る脱水汚泥などを埋立てている。平成5年か

ら第1期、23年から第2期。第1期の埋立て地は、ふれあい公園として野球、ソフトボールやサッカーなどの運動公園等として無料で一般に開放している。



浅川ふれあい公園

## ◆新源泉

旧赤湯小学校敷地内に、昨年8月より今年1月までの工期で掘削工事が行われた。

掘削深は850mで、揚湯量は毎分266ℓ。泉温は52℃とのこと。

また、早期の供給開始などについては計画検討していきたいとのこと。

(委員長 白鳥 雅巳)

## 議会報告

### 置賜広域病院組合

#### 看護師、助産師の不足解消を目指す

5月臨時議会は、5月26日南陽市議会議場で開催された。提出された議案は「置賜広域病院組合看護師等修学資金貸与条例」1件。

この議案は看護師及び助産師の継続かつ安定的な確保を図ることを目的として、修学資金の貸与に関し、必要な事項を定めるため、新たな条例の設定をするもの。

修学資金は、月額5万円以内を無利子で貸与し、看護師等養成施設卒



真剣に実習を受ける看護学生

業後、1年以内に看護師等の免許を取得し、置賜広域病院組合において、一定期間業務に従事したときは、修学資金の返還を免除する制度。

採決の結果、全員異議なく可決。条例の施行は27年4月1日。(置病議員 殿岡 和郎)

### 置賜広域行政事務組合

#### スケールメリットで進む消防車両の整備

5月15日臨時議会在米沢市議会議場で開催された。

提出議案は次のとおり。

○25年度一般会計繰越明許費の報告

○25年度消防特別会計繰越明許費の報告

○組合有財産の取得

・水槽付消防ポンプ車

・消防ポンプ自動車

・高規格救急自動車 各1台

○組合清掃事業所設置条例の一部改正

○26年度消防特別会計補正予算

審議の結果、いずれも全員異議なく可決された。(置広議員 高橋 弘)

# 議員としゃべっぺ

第2弾

- **会場** 市役所3階 全員協議会室  
(正面玄関よりエレベーターでお入りください)
- **時間** 午後7時～8時30分
- **テーマ**
  - 8月20日(水) 子育て、教育など
  - 8月21日(木) 防災及び新文化会館の利活用など
  - 8月22日(金) 中央花公園とハイジアエリアの観光・産業振興策など



「議員としゃべっぺ」は南陽市議会で初めて今年2月に8地区の公民館で開催しました。南陽市の現在、将来のことを議員と気軽にしゃべり市政に反映していく企画です。

初回は公民館単位に、他地区の議員が出向く形で実施しました。次のようなご指摘が出されました。

1. 開催時期は翌年度予算要求前が良い。
2. テーマごとが良い。
3. 各種団体のご意見をしゃべってもらうのも良い。
4. 若い方の参加が少ない。

以上を踏まえて、今回はテーマを設定し、市役所で上記の日程で3日間開催することにしました。

定員は設けませんので奮ってご参加ください。

## ●お問い合わせ

市役所議会事務局(2階東)  
電話 40-3211 内線 302  
ファックス 40-2036



# こうなあってほしい南陽市

南陽市郡山 菅原清子

私達家族は、福島県郡山市より転入してきて、もうすぐ3年になります。

3年の間に、子供の医療費無料化が小学6年生まで引き上がり、また、受診した際の窓口支払いが無くなり「子育て支援宣言都市」の如くに改善されました。子育て中の親にとって、大変ありがたいことです。

でも、私が一番利用したいのは、自宅から徒歩又は自転車で行ける距離にある身近な公園です。子供と一緒に鉄棒で逆上がりや自転車の乗り方を練習できる公園です。水辺とあずまやがあつて、自然観察ができる公園がほしいです。是非、宜しくお願致します。



## 表紙の写真

6月14日、赤湯駅構内でステイネーションキャンペーン開催セレモニーが行われた。当日は、行政はじめ観光業界の役員たちが参加し、成功裡に終わることを願うテープを

カットした。また「つばめ幼稚園」の年長組が、マーチングバンドを力強く披露した。さっそく山形新幹線が到着し多くの観光客が赤湯駅に降りた。私たちが市民も「おもてなしの心」で迎えたい。

(編集委員 片平)

## 編集後記

今年は何年より一週間ほど早い梅雨入りとなりました。さくらんぼ農家の方々は、気がなかつたかと思いますが、降雨量はそれほどでなく、とりあえずはホッと一安心でした。しかし、各地でゲリラ豪雨の報道を耳にすると「梅雨の終わりの落し物」のような豪雨災害が無いことを祈りたいと思います。

さて、議会の役員任期により多少メンバー



- 委員長 高橋 一郎
- 副委員長 船山 利美
- 委員 山口 正雄
- 委員 片平 志朗
- 委員 板垣致江子

# 全国市議会議員会 議員在職十年表彰 地方財政委員会感謝状 受賞

全国市議会議員会より、3名の議員が表彰状と感謝状を受賞されました。市議会議員在職10年の表彰を受けた方は、高橋篤副議長、田中貞一議員。地方財政委員会感謝状は、遠藤榮吉議長。

## 議員在職10年表彰



高橋 篤 副議長



田中貞一 議員

## 地方財政委員会感謝状



遠藤榮吉 議長

また、南陽市内には「えくぼプラザ」や「ドリムランド」の充実した施設があり、よく利用させていただいています。市外の友人も利用しているとのことで、市民として誇らしいことです。